



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年01月25日 第1004号「週刊五十嵐レポート」

## コロナ後の兆し

東京におけるコロナ感染状況は、1月18日(月)現在感染者数20,777人をピークに、19日(火)～24日(日)の6日連続で1日当たりの感染者数が1日当たりの回復者数を下回り、24日現在感染者数は18,227人と2,500人減少となった。コロナ第三波は峠を超えたと思われる。

厚生労働省によると、2月下旬より、順次コロナワクチン接種がはじまる。ようやくコロナ後への兆しが見えてきた。

飲食業経営者の話によると、昨年5月の非常事態宣言で完全休業し、公的支援を受けながら、根本的にコストを見直した。夏場から盛り返し、10月、11月は「GO TOイート」の影響もあり、前年度を上回った。12月は時短、1月再度非常事態で8時までだが、店は開けている。昨年の経験があり、今は悲壮感はない。希望が見えてきた。周辺の店舗も空き始めたこともあり、次の出店も具体化してきた。同じ地域で同じ客層にちょっと変化を持たせた店づくり。得意の客層で勝負する。

地方の高級ホテル経営者の話。昨年5月の非常事態宣言では需要は消えていったが、夏からの「GO TOトラベル」により昨年内は前年度を超えた。人材採用にも大企業が採用を手控える影響で良い人材を確保できた。「自然」「景観」「おもてなし」で付加価値を提供をしてきた。ワンランク上へ目指してきた。同じ市内にもう一つシティ型高級ホテルを構想している。このようなコロナ禍でも市場はある。逆にビジネスホテルには参入しない。「アパホテル」や「東横イン」に勝てるはずもない。得意なところで勝てる勝負をする。

ドラッカーの言葉に、「未来はわからない」、「未来は現在とは違う」と言っている。そして未来を知るための方法は、「すでに起こった未来を見ること」、更に「自分で未来をつくること」と言っている。

コロナによって今までと違う現在がある。元には戻らない。多くの人々が未来を見た。次は、自分で未来をつくることになる。もう次の兆しが見えている。今まで屈んでいた。それはこれから高く飛び上がるために。

ちょっと  
出来事

1月24日付日経新聞「銭湯で咲いたITスキル」という記事。ITエンジニアが実家の銭湯にIT技術を注入し、経営を改善した話。実家の銭湯を手伝い始めると、エンジニアの目線で銭湯の伸びしろを感じた。

今まで、毎日の来店客数を数えていなかった。珍しくサウナを備えているのに、水風呂がイマイチだった。アプリをアップデートするように改善を重ねる余地がたくさんあった。

経営状況を把握するため、時間別来店者数や性別を集計するシステムを1週間ほどで作った。女性と子供の数が少ないことが判明。そこで女性向けに高性能のドライヤー、柔らかい貸しタオルを用意。子供向けに入りやすいように温度をぬるめに設定。冷蔵庫には自ら醸造所で買い付けたクラフトビール。売上は1年間で約8割増えた。

「エンジニア時代はシステムが誰のために役立っているのか見えづらかった。今はお客さんの反応がじかに伝わってくる」

日本のIT人材は全体の72%がソフトウェア・情報処理業に従事。非IT産業にはIT人材が少ない。一方米国・ドイツは6割超が非IT産業に従事。

ITスキルを持った人が非IT産業に行けば、新しい風が吹く。面白い。



一口メモ  
知識

## 観音さまは何を望むか

観音さまは、もしもおいでになったとしたら、「自分を拝んでもらいたい」と思うのでしょうか。むしろ、慈悲の心を実践してもらうことを喜ばれると思います。

ブッダにしても、自分の目の前で、自分が説いた經典を、わざわざ読んでもらいたいとは思わないでしょう。むしろ、「うるさいな」と思っているかもしれません。仏像の前で、お願いしたりお経を読んだりするよりも、慈悲の心を育て、ブッダの教えを実践しようと思うことが大切なのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

